

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ コマザウ	フリガナ ケイエイ	フリガナ カネムラ エイテツ
駒澤大学	経営学部	兼村 栄哲 ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ イチロクゴ	フリガナ シガ リサコ	4	無
165	志賀 里紗子		

研究テーマ（発表タイトル）
「受験生を守る」2D・3D の融合型スマートフォンロック

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

スマートフォンが日本中に普及し始めた2010年前後に受験期を迎えていた私たちは、受験生の勉強を阻害する要因のひとつとして、スマートフォンの存在が大きいことを実感した。アプリや新機能などの発展で、さらに中毒性をもちつつあるスマートフォンについて、そのメリット、デメリットをうまく使い分けることで受験戦争を勝ち抜いてほしいという思いから、『「受験生を守る」2D・3D の融合型スマートフォンロック』の開発をテーマとした。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

私たちが中学3年生であった2010年、総務省の調べによると、スマートフォン（以下、「スマホ」と記載）の世帯保有率は7.2%だったが、2016年現在はその10倍の72%となり、今後も保有率は高くなると見込まれる。中でも、中高生のスマホ所有率は一般平均よりも高い81%と、およそ10人に8人が所有している状態にある。スマートフォンの普及に伴い、高校生が「スマートフォンの利用開始により減った時間」の1位が睡眠時間40.7%、2位が勉強時間34.1%となっている。睡眠と学習の研究における第一人者であるTIMSS and PIRLS International Study CenterのChad Minnich氏は、「子供は睡眠時間が多いほど数学と科学、リーディングの成績が良い」という研究結果を報告しており、睡眠時間がスマホによって削られているのは、結果的に学習に悪影響を与えているといえる。また、私たちが独自に行った、現在受験生である中高生を対象に行ったアンケートにおいても、対象学生の90.7%が「使いたくないのについスマホをいじってしまうことがある」と答えた。また、「それはどんなときですか？」という質問での1位は勉強中68.3%、2位は寝る前で66.9%という結果が得られた。ここで、受験生のスマホ利用にはデメリットもある反面、メリットも多々ある。現在受験生向けのアプリや受験情報発信サイトが充実しており、どこでも手軽に英語のリスニング学習ができたり、数学の図形展開問題を動画で確認できたりといった、うまく利用すればプラスの効果をもたらす場合もある。そのため、スマホの利用を完全に制限するのではなく、うまく利用し、必要のないタイミングでスマホと距離を置くことができれば、勉強をより円滑に進めていけると考えられる。

私たちは、上記の現状データ、仮説をもとに独自のアンケートを作成し、スマホの利用が及ぼす学習への悪影響の実態を明ら

かにし、その問題を解決するための新たなサービスを開発した。

3. 研究テーマの課題

私たちはこのような現代の受験生をスマホ中毒から救うべく、勉強サポートサービスの開発を試みた。当初サービスはスマホアプリで完結させ、スマホに自分で指定した時間帯でロックをかけ、一定時間スマホ操作を不可能にするという方法を考えていた。一方で、Apple は強制的にスマートフォンが操作不可能になるアプリは本体の乗っ取りに繋がるため、許可していない（株式会社デジタルアドバンテージの代表取締役・小川誉久氏とのインタビューより）。そのため、完全にアプリでのみでスマホ利用を制限することは困難であり、それを実現するには、アプリと組み合わせた新しい方法の提案が必要となる。また、アプリ単体に比べサービスの販売価格が上がるのが想定され、ユーザーのニーズと合わせバランスのとれたサービスとしていく必要がある。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記のような、アプリ以外でのロック機能、スマホのメリット、ユーザーのニーズと合わせたバランスの良いサービスや販売価格を実現するための新たなビジネスモデルとして、私たちは「2D」と「3D」の融合した「スマホ使用制限サービス」を開発した。2D、つまりスマホのアプリを使ったサービス、3D、物理的にスマホの使用を制限するサービス、その2つを融合させたサービスを提供する。それによって、互いの弱みを補完でき、なおかつ強みを織り交ぜることで、一方だけに比べて格段に効率の良いスマホ使用制限サービスを実現することができる。

アプリの購入者である（使用者は受験生）親御さんへの販促アプローチとしては、スマホの勉強へのメリット、デメリットを紹介し、没収またはそのまま放置するのではなく、うまく利用することが鍵であることを実証する。それによって、スマホの使用頻度にかかわらず、スマホを所有する受験生の子を持つすべての親御さんが興味を持つようプロモーション展開を行っていく。コスト面では、親御さんが複合的な機能にいくらまでかけることが可能かの調査を行い、その価格とのバランスをとることでより気軽に使える仕組みを整える。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

本ビジネスモデルに基づき、より顧客のニーズに応えるために、私たちは都内在住の現役受験生である中高生 523 人、親御さん 559 人、都内中学・高校教員と塾講師を合わせた 303 人に独自アンケートを実施した。また、スマートフォンなどの情報機器に関する動向を調査している総務省管轄の研究所、アプリ開発を行う企業、ハードウェア開発を行う企業、全 10 機関へのインタビューを行った。これらの研究・調査結果を元に、私たちは『タイマーロック付きスマホケースとスマホ管理アプリの融合サービス』を提案する。

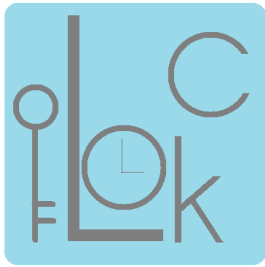
【 商品・サービス概要 】

◎アプリ

- ・**受験生向けのページ**：目標ロック時間を掲げ、その達成率をわかりやすくグラフでまとめることで、目標タイム達成の継続意欲を掻き立てる。また、アプリを通して、模試に関する情報や、夏休みの有効なスケジュールの組み方 10 選、自分に合った参考書選びなど、受験に有益な情報発信することで、スマホ利用のメリットを最大限生かせる環境づくりを行う。
- ・**親御さん向けのページ**：通知サービスと、受験生を持つ親御さん限定の掲示板や、親御さんのための役立つ情報まとめ欄を掲載する。通知サービスでは、子供である受験生が目標ロックタイムを達成できているかを定期的に通知し、緊急ロック解除が行われた際の通知など、親子が協力してスマホを管理できる機能を実装する。掲示板では、親御さんならではの悩み相談や意見交換ができ、まとめサイトには、試験前日にぴったりのレシピ紹介や、受験生への接し方講座など、親御さんが知って得する情報を掲載していく。

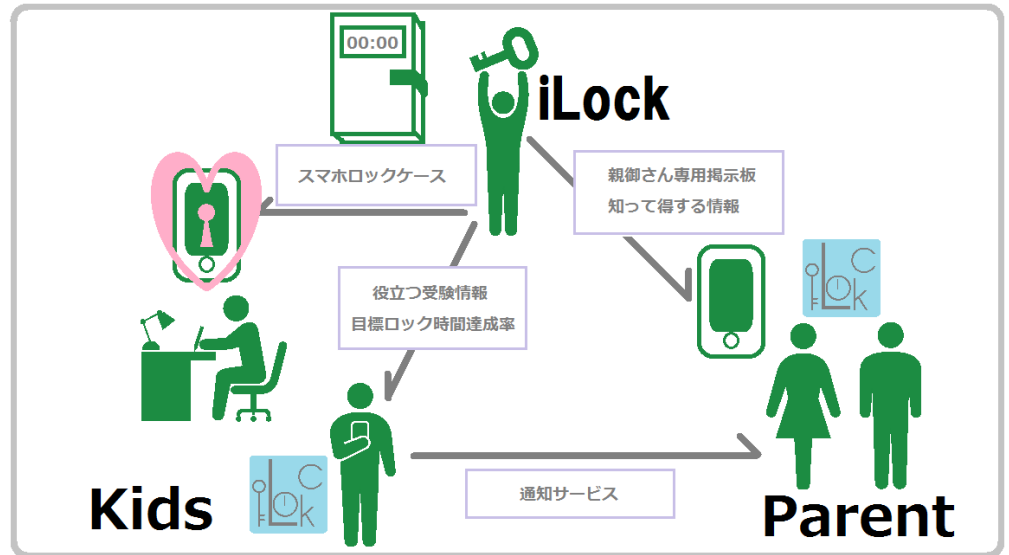
◎スマホケース

スマホをタイマーロックのかかるケースに入れてロックをかけることで、アプリには実現できなかった物理的で強力な制御を可能とする。



スマホ管理アプリ
“iLock” ロゴ (上)

iLock 使用イメージ (右)



【 プロモーション方法 】

スマホ所有のメリット、デメリット、このサービス利用における費用対効果をわかりやすくまとめたリーフレットを作成し、受験生の親御さんが訪れるオープンキャンパスにおいてピラ配りを行う。また、同様の説明を SNS 上の広告に掲載し、実際にスマホを触っている人にリアルタイムで宣伝することで当事者意識を抱かせ、購買欲増進につなげていく。

6. 結果や今後の取り組み

スマートフォンケースの開発は、株式会社 DMM.com (DMM.make AKIBA) 監修のもと、アプリケーションの開発は株式会社デジタルアドバンテージ監修のもと、開発を進めていく。商品化実現後は、ご購入いただいた方に、受験の合格体験記を書いていただき、「スマホとうまく共存していくことが合格につながる一歩となる」ことを、合格者のリアルな口コミを通じて広める活動をする。

7. 参考文献

<<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2014/internet-addiction.pdf>>2016/9/2

<<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2014/internet-addiction.pdf>>2016/9/2

<http://www.bc.edu/offices/pubaf/news/2012-nov-dec/2011_TIMSS_and_PIRLS_results_released_by_BC_researchers.html>2016/9/3

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。